

## 阿南市地域公共交通活性化協議会 令和3年度 第3回会議 議事録

日 時 : 令和4年2月15日(火) 14:00~

場 所 : 阿南市役所6階 602・603・604会議室

出席者 : 阿南市 市長 表原 立磨  
阿南市 副市長 山本 俊也  
阿南市 特定事業部長 岡田 佳造  
阿南市 特定事業部理事 倉本 正樹  
阿南市 保健福祉部長 吉村 茂宏  
徳島県次世代交通課 課長 地面 浩  
徳島バス(株) 企画管理部 副部長 東 孝行  
徳島バス阿南(株) 取締役社長 千本 寿史  
四国旅客鉄道(株) 徳島企画部長 山本 仁志  
毎日タクシー(有) 代表取締役 畠山 頼彦  
伊島連絡交通事業(有) 代表取締役 粟田 一元  
四国地方整備局徳島河川国道事務所 副所長 山本 健司  
徳島県南部総合県民局(阿南) 県土整備部部長 徳永 雅彦  
阿南市 建設部長 都築 宏基  
阿南警察署交通課 課長 白川 智也  
阿南市民生児童委員協議会 会長 丹生川 和彦  
阿南市セニアクラブ 会長 吉田 忠彦  
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送・監査) 坂尾 貴之  
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(総務・企画観光) 賀出 晴美  
阿南市 地域共生推進課 課長 日下 課長  
【事務局】(まちづくり推進課) 湯浅 課長、武田 課長補佐、西野 係長、  
佐野 主事  
株式会社 GPMO 山本、寺尾  
欠席者 : 利用者代表 小川 美紀  
阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 准教授 加藤 研二

議 事 :

- (1) 阿南市地域公共交通計画(案)について
- (2) パブリックコメント・今後のスケジュールについて
- (3) その他

資 料 :【配布資料】

- 資料1 阿南市地域公共交通計画(案)【本編】
- 資料2 阿南市地域公共交通計画(案)【概要版】
- 資料3 阿南市地域公共交通計画に係る経過等
- 資料4 「阿南市地域公共交通計画」(案)に関するパブリックコメント(意見募集)の実施について
- 資料5 阿南市地域公共交通計画策定に向けた今後のスケジュール

## 1. 開 会

(表原 市長)【市長あいさつ】

## 2. 議 事

### 議事1. 阿南市地域公共交通計画(案)について(事務局から説明)

(事 務 局) 地域公共交通が目指す将来像を「人口減少問題を乗り越え豊かでキラリと輝くまち」とし、計画の趣旨、区域、期間、計画の達成状況の評価、阿南市の課題、地域公共交通の形成に向けた基本的な方針、重点施策、評価指標の説明を行った。

【質疑応答】

(委 員) 本編147ページの目標値で、令和元年度をベースに維持することを目標としているが、上位計画の阿南市総合計画では10年間で約8,000人程度の人口減少を想定されているが、令和元年度並みの利用者を維持していくことは困難ではないのか。

(事 務 局) 人口が減少している中で利用率が増加する目標設定の仕方も含めて、再度検討する。

(委 員) 本編147ページの目標値で、鉄道の市内9駅の年間利用者数となっているが、弊社の中期計画では同じようなKPIを設定している。また県でも新たに地域公共交通計画を策定中のため、それらとの整合性を図り、再度、数値目標を検討してほしい。

- (事務局) 再度、精査する。
- (委員) 本編には利用しやすい公共交通と記載しているが、例えば主要なバス停ではベンチがあるが、それ以外の場所ではない。ベンチがなく、手押し車に座っている高齢者を見かけることもある。どうにかならないかと思うこともある。
- (事務局) 交通事業者・行政だけで考えるのかも含めて、いろいろ検討していく。
- (委員) 本計画を作成するにあたってアンケート調査を実施し、住民の意識を反映したものになっているが、令和8年度の間年間で、市民の意識の変化を調査するために、再度同じ項目でアンケート調査を実施してみてもどうか。
- (事務局) 中間年においてどのように市民の意識が変わったかという点においては、アンケートをする必要性は十分あると考えており、今後検討していく。
- (委員) 本編132、133ページの乗合タクシー、ご近所ドライブパートナー事業についてだが、乗合になると遠慮して乗られない高齢者の方も出てくるのではないか。
- (事務局) 現在の市周辺部における移動手段の検討については、まず、現在実施しているご近所ドライブパートナー事業はドアツードアでの輸送を行っているが、これは公共交通においてかなり例外的な状態となっている。公共交通を運行するうえにおいては道路運送法の規定があり、基本的にドアツードアの輸送はタクシーに限られるとなっている。
- 本計画における交通網を組んでいくうえでは、基本的に既存のバス路線を主軸に考えている。各乗合タクシーやNPO等による輸送となると道路運送法上の規定もあり、基本的には最寄りのバス停や駅まで繋ぐような移動手段という形の検討になると思っている。ドアツードアでの移動にしてしまうと、既存のバス路線の利用者を取ってしまうような形になる。これは市内のバス路線自体の維持が困難になり、もっと空白地が広がっていくような事態が考えられる。そのため基本的には既存のバス路線を軸とし、そこまで繋ぐ移動手段の検討になっていくと考えている。
- (委員) 交通事業者として申し上げたいのは、今までは、鉄道とバスはある意味、ライバル関係でお互いにお客様を奪い合っていた部分もあった。
- しかし今後は、交通事業者が持続的にサービスを提供でき、交通事業者ごとに役割を分担し、住み分けをいかに上手く組み合わせて、長期的な事

業ができるように計画を立てたい。

(委 員) 提案として、例えば健康寿命と結びつけて、自然散策コース、観光めぐりコースを作成し、そこで公共交通を利用してもらうような実証実験を行ってみてはどうか。

(事 務 局) 重点施策の柱として、イベントとの連携を掲げているため、今後、相談に乗っていただけたらと思う。

## 議事 2. パブリックコメント・今後のスケジュールについて

(事 務 局) パブリックコメント・今後のスケジュールについて説明を行った。

また交通結節点機能の向上として、阿南駅の改札口から高速バスの乗り場にかけての案内表示の設置を検討している。

## 3. 閉 会

(表原 市長)【市長あいさつ】

以上